

IV. 考察

◇家庭生活における男女の協力を進めるために

「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方に「同感しない」「どちらかというと同感しない」と考える人が7割を超えている。また、「家事や育児は、家族共同の仕事であり、男女で分担して行うべきである」と考える人は約6割という結果となった。前回調査より意識の向上はみられたが、家庭での役割分担の現状は、多くの分野で女性が中心のままとなっている。

- 課題 【課題】 ・夫婦や家族間での役割分担についてコミュニケーションの促進
- ・男性の参画促進（男性自身が家事・育児・介護への抵抗感をなくす）
 - ・社会全体の意識改革（男性による家事・育児・介護が社会で認められること）
 - ・環境整備（男性による家事・育児・介護を促進する環境を整えること）

◇女性が仕事を続けられるために

女性が仕事に就くことについて「ずっと仕事を続ける方がよい」と考える人が約5割、「子どもができれば仕事をやめ、子育てが一段落したら再び仕事をもつ方がよい」と考える人も4割近くである。

男性の育児休業の取得については、「積極的に取った方がよい」「どちらかといえば取った方がよい」を合わせると9割以上となっている。一方で、女性に比べ男性の方が「女性は子どもができれば仕事をやめ、子育てが一段落したら再び仕事をもつ方がよい」という考え方が多い結果となった。

- 課題 【課題】 ・職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- ・職場の意識改革（管理職・上司の意識改革、経営層による風土づくり）
 - ・職場への支援（各種制度の活用等）
 - ・育児休業や介護休業の取得が不利益にならない人事評価制度の確立・周知
 - ・女性の就業・再就業への支援

◇女性が地域でリーダーになるために

女性が地域活動のリーダーになるためには、男女ともに「地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」「地域活動のリーダーになることに対する女性の抵抗感をなくすこと」の回答が上位を占めている。

- 課題 【課題】 ・地域社会全体の意識改革とリーダーへの積極的な女性登用の働きかけ
- ・働き方の見直しやワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の普及促進

◇防災・災害対策での男女共同参画を推進するために

「防災計画の策定の際に男女がともに参画する」、「避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる」の回答が上位を占めている。

- 課題 【課題】 ・計画の策定やマニュアルの作成段階での、男女双方の意見や視点の採用

◇セクハラ・DVを防止するために

セクシュアルハラスメントやDVについて、「自分が直接被害を受けたことがある」人は、全体では1割程度であるが、誰かに「相談した」と回答した人は4割を大きく超え、「相談しなかった」と回答した人は5割という結果となった。また、相談窓口の認知度も警察を除くと、1割程度か1割以下である。

課題¹²⁴・あらゆる男女間の暴力をなくすための啓発や、相談窓口の周知の促進
・被害者支援

◇あらゆる分野で男女が活躍できるように

男女不平等の原因として「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強い」「男性が仕事優先・企業中心の考え方が根強い」の回答が上位を占める。

また、「育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整っていない」「女性の能力を発揮できる環境や機会が十分でない」の回答も多かった。

課題¹²⁵・「男だから」「女だから」という先入観をなくし、個人個人の能力に合わせた役割分担
・性別にとらわれず個性や能力を伸ばす教育の推進
・仕事と家庭生活の両立支援（柔軟な働き方の推進等）